

◆調査日：平成20年5月30日（金）

1 調査箇所：エクサンプロバンス市

2 説明者

- |                                     |               |
|-------------------------------------|---------------|
| ・エクス地方都市共同体ブイリカール村<br>環境持続可能な成長担当助役 | クリスティンヌ・ベルナール |
| ・エクサンプロバンス市国際関係課長                   | ミシェル・クトメール    |
| ・環境アトリエ協会 ディレクター                    | ニコラ・デブラ       |
| 〃 理事                                | ジャンヌ・ラマルク     |

3 調査箇所の概要

フランス南東部（マルセイユ北方30Km）に位置し、ブーシュデュローヌ県の県庁所在地で、面積は約186Km<sup>2</sup>、人口は約14万人。ワインやオリーブなどの農産物やセザンヌの出身地などで有名である。

なお、同県のカダラッシュには、国際核融合実験炉（ITER）の建設が予定されている。

4 自然保護関連施設及び環境教育等の取り組みの

- 治水、飲料水の確保、水の浄化、雨水の管理、公害対策、河川の管理さらには、ごみの収集、騒音対策、大気汚染対策等は34のコミュンからなるエクス地方都市共同体（CPA）で実施している。
- 1993年、市の環境政策として「緑の空間の保護」「環境に対する啓蒙活動の強化」が打ち出された。  
特に啓蒙活動については、環境アトリエ協会と共同で進めることとされた。
- 啓蒙活動の一つとして、子どもたちへの環境教育の実施がある。子どもたちに



人気のある森林をテーマに1クラス1haというプログラを実施した。

- 市の森林の一部を充てて、授業の一環として森を何度も訪れ、木の高さをあてる観察力の授業や、木の葉から木の種類を調べるオペレーションなどを行っている。



### <質疑>

問 1クラス1haは、エクサンプロバンス市のみの取り組みか、それともCPA全体での取り組みか。

答 今は中断しており、現在は市内に目を向ける活動に取り組んでいる。

問 34のコミューンの取り組みはみな同じなのか。

答 環境教育は、文部省のプログラムに入っているが、我々のプログラムでは、内容をさらに掘り下げている。また、34のコミューンでは、CPAレベルで環境教育を統合していこうと考えているが、現状では、エクサンプロバンス市の方が、CPAよりプログラムが充実している

環境教育は教師の自発的働きかけがないと動かない。やる気のある教師にエクサンプロバンス市やCPAから教育に係る経費に対し補助金が支出される。現在CPAの900のクラスが環境教育に取り組んでいる。

問 フランス全体で、環境教育への機運が高まっているのか。

答 国の指導要綱では、廃棄物、交通、大気汚染のテーマがあり、教師がエントリーする仕組みになっている。



問 国がベースを作り、各地域が行っているのか。

答 環境は、教科として存在しないが、方針として提示されている。

したがって、教師自らが内容を掘り下げて環境教育を実施することができるよう、アソシエーションが実際の指導を援助し、その経費についてCPAが補助金を支給する。

問 教師に対する環境教育への研修は、どのように実施されているのか。

答 教師の研修プログラムに入っており、希望する教師が受講する。  
実際に教育を行う際には、アソシエーションがアニメーターを派遣し教材の作成を支援している。



問 エクサンプロバンス市の環境教育は成功していると言えるのか。

答 環境教育を評価することは難しく、成功できたといえるのは、子が親の環境に対する行動を評価できるようになった段階であると考えます。

現在、各コミューンの環境教育の発表会があり、その発表会で各コミューンの取り組みを知ることで、環境教育に対する認識が深まってきている。



※ 民主党・かながわクラブ調査団とベルナール助役（前列右から2番目）及び環境アトリエ協会理事



※ GRAND ST JEAN SITの調査

※ GRAND ST JEAN SITの施設



※ ブイリカール村役場前